

「グローバルヘルスにおける地域や大学との連携」

石川 尚子
医師

経 歴

秋田大学医学部卒業

London School of Hygiene & Tropical Medicine 修士課程修了

Institute of Education, University College London 博士課程修了

専門領域は公衆衛生、感染症対策

国境なき医師団、国立国際医療研究センター、世界保健機関等で
アジアやアフリカにおける開発途上国の保健医療活動に従事



講演概要

人類はこれまでの歴史の中で、数多くの感染症と戦ってきた。2020年から世界が直面している新型コロナウイルス感染症パンデミックは、感染症の脅威とその対策の難しさに加え、一人ひとりが利害を超えて協働することの大切さを改めて認識する機会となった。

グローバルヘルスとは、地球規模で人々に影響を与えている健康課題に対し、国や地域を越えた協力を通してその解決を目指していくことを指す。歴史を紐解くと、ペストの流行に苦しめられた14世紀のヨーロッパにおける複数の共同体の協力を引き継ぎ、二つの世界大戦を経て世界規模での協力体制が確立された。2000年の国連ミレニアム宣言をもとにまとめられたミレニアム開発目標(MDGs)では、保健課題が大きく取り上げられ、母親や小児の健康問題やHIV、マラリアなどの感染症対策への取り組み、特に開発途上国への支援が世界レベルで行われた。それらは2015年からの持続可能な開発目標(SDGs)にも引き継がれている。

世界保健機関(WHO)はその憲章の中で、「健康とは、肉体的、精神的、社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病や虚弱がないということではない」と定義している。また、「到達しうる最高基準の健康を享有することは、万人の有する基本的権利の一つである」とも謳っている。これらを達成するためには、医療関係者だけでなく、全ての関係者・様々なプレイヤーが、密な連携と協力の下にそれぞれの力を十分に発揮していくことが必須である。

大学や研究機関はその重要なプレイヤーの一つとして、様々な役割を果たしてきた。そのひとつが、科学的根拠に基づく保健医療を行うための研究とエビデンスの創出である。その結果開発された有効な予防や治療などの介入が、開発途上国における人々の健康を守ってきた。また近年グローバルヘルスにおいては、保健サービスの受益者、つまり地域住民や疾病の影響を受けている当事者など、コミュニティを中心に据えた取り組みの重要性が強く認識されている。その中で、存在する課題について大学や研究機関とコミュニティが共に研究し、現状改善を目指すというアプローチがアクションリサーチ、オペレーショナルリサーチ、あるいはインプリメンテーションリサーチと呼ばれる枠組みの中で実践されている。いくつかの例を取り上げながら、その学びや今後に向けた課題を抽出したい。